

【別添2】(様式例1)

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃高等学校 学校番号 39

1 学校教育目標	知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材の育成
2 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学後、生徒は年次を重ねるごとに、生活や学習等の取り組みに対し改善が見られつつある。 ○ 「あ・じ・み」(挨拶、時間、身だしなみ)の指導が定着しつつあり、地域での評価が徐々に向上している。 ▲ 基礎学力が定着していない生徒が少なくない。学習意欲を刺激し、学習習慣を身に付けさせる必要がある。 ▲ 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していない。コミュニケーション能力とソーシャルスキルの学習が必要である。 ▲ 自分自身の良さや課題を客観的に捉えることができず、独りよがりの判断や行動が目立つ。(特に1・2年次)
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着並びに授業のユニバーサルデザイン化のさらなる推進 ・基本的な生活習慣の確立と道徳心の育成 ・キャリア教育とコミュニケーション能力のさらなる育成
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習指導・教科指導の充実(「評価の可視化」「加点法評価」「主体的で対話的な深い学び」「地域社会人の育成」) ◇生活指導・特別活動指導の充実(「基本的な生活習慣」「規範意識」「活気と思いやり」) ◇コミュニケーション能力の育成とキャリア教育の充実(「演劇ワークショップ」「キャリア教育プログラム」「外部講師の活用」)

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
・学習指導	①ユニバーサルデザインの授業	①生徒による授業評価	①年2回実施。おおむね良好。	B	○授業展開や教材を工夫する 教員が多くなった。 ▲ICTの活用が不十分。	B
	②誰にでも「分かる」授業	②学びの基礎診断	②学年を経るにしたがい大きく向上。	A		
	③主体的で対話的な深い学び	③教員による授業評価	③年2回実施。消極的な教員が多い。	C		
・生徒指導	①基本的な生活習慣の確立	①学校関係者アンケート	①保護者の91%が肯定的意見。	A	○生徒にも保護者にも指導 への理解が深まった。 ▲具体的指導方法の徹底。	
	②規範意識の醸成	②生徒対象アンケート	②生徒の90%が肯定的意見。	A		
	③全職員による共通指導	③教員の年度末反省	③項目ごとの具体的指導基準の不徹底。	C		
・進路指導	①望ましい勤労観の育成	①生徒対象アンケート	①生徒の89%が肯定的意見。	A	○指導体制が充実した。 ▲画一的ではなく個に応じた 指導方法を工夫する。	
	②コミュニケーション能力の育成	②学校評価アンケート	②演劇ワークショップのアンケートで高い評価。	A		
	③ソーシャルスキルの習得	③講座ごとのアンケート	③外部講師に対して肯定的意見。	B		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月23日

・学習面において、ICT機器がさらに活用され、生徒の基礎学力や学習意欲の向上につながることを期待する。

・生徒の身だしなみは、以前に比べかなり改善され、挨拶も活発にできるようになったが、一部生徒の校外での服装に問題がある。

・進路指導において、他校におけるデュアルシステムを参考にするなど、地元企業と連携して職業観や勤労意識を育成したらどうか。

・部活動を活性化し、学校を活発にすれば地域も元気になれる。

12 来年度に向けての改善方策案

・ICT機器を活用した指導方法を充実させ、学習意欲を向上させるとともに「主体的で対話的な深い学び」へと結びつけていく。

・生徒指導において、「遅刻数の減少」など具体的な重点を定め、全職員が一丸となって徹底的に指導する体制を構築する。

・1年生のキャリア教育プログラムの成果を、2年・3年と系統立ててつないでいく。その過程において、地元企業の社会人を講師として活用する。

・部活動において、年間を通じた計画的な活動を、効率よく展開する工夫を行う。